

小学校第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 くじけず、負けず、先に向かって【内容項目D-(22)よりよく生きる喜び】

2 教材名 「口永良部島で生きる人々（写真）」「口永良部島の人々の思い(記事抜粋)」(自作)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

私たち人間は本来、よりよく生きようとする存在であり、そのために人間性をより高めようと努めるすばらしさをもっている。その一方で誰しもが誘惑に負けたり、安きに流れたりするといった弱さもち合わせている。

しかし時に、他者の強き心やあきらめない熱意などというような人の気高さに出会うことにより、自己の弱さを見つめ直し、それを乗り越えようと自覚し、さらに乗り越えることによって自己の誇りや生きることへの喜びを感じる。

思春期に入り、安きに流れやすいこの時期に人の気高さに出会い、自己の弱さを振り返り、見つめ直すことは大切であると考える。

○児童の実態について

本学級の児童は、最上級生として下級生のお手本となり頑張りたいという気持ちを持ち始めている。しかし、人に流されてルールを破ったり、遊びに負けて宿題をしてこなかったり、役割を人に任せてしまったりする心の弱さを見せる児童も少なくはない。アンケート「心の弱さに負けずに強く生きていこうとしている」の結果で、[当てはまる]が9割を超えていたが、真に自己を見つめることができているとは言いづらい。

卒業前の児童に、自己の弱さとは何なのかを見つめさせる機会を設けることにより、残った小学校生活をよりよく過ごしてほしいと望んでいる。

○教材について

本資料は、平成27年5月29日に大噴火した口永良部島の様子の写真と新聞記事である。
まず、次のような視点で写真を提示したいと考えている。①噴火前の口永良部島と人々の生活。②噴火後の口永良部島(多方面より)。③口永良部島の人々の避難(離島する様子)。④避難した人々の生活。次に、記事は避難した人々の口永良部島への思いについてまとめたものとする。
被災された人々の気持ちを児童が考えやすいように構成した資料にしていきたい。

○指導について

導入では、自分の弱さを記述した事前ワークシートを基に話し合うことにより、ねらいとする価値への方向付け(めあて)としたい。

展開前段では、口永良部島の噴火前後、避難時、避難後の住民の様子の写真画像を見せることにより、避難した人々の気持ちをウェビング化して表現させ、理由も簡潔に記述させる【書く活動①】。多面的・多角的に考えさせるために、ウェビング化したものをグループや全体で交流させ、その際、加筆する場合は朱書きをさせる。最終的には、住民の人々の多様な気持ちを可視化させるため、総括したウェビング図としてまとめる【話し合い】。様々な気持ちの中でも元の生活に戻れるように前向きに頑張ろうとしている姿に触れさせたい。展開後段では、この授業で学んだことを記述させる【書く活動②】。

終末では、これまでの自分と今後の自分について具体的に書かせ、意欲や態度につなげたい。

4 ねらい

口永良部島から全島避難した島民の辛さや大変さ、島を大切にする思い、元の生活に向けて頑張ろうとする姿勢について考えていくことにより、自己の弱さを見直し、よりよく生きようとする意欲や態度を養う。

5 展開

	学習活動と内容	主な発問(○)と 予想される反応(・)	指導上の留意点 <small>期待される児童の姿(教師の願い)</small>
導 入	1 誰にでもある心の弱さについて話合う。 心の弱さを見直して、少しでも乗り越えられるようにするために話し合おう。		・誰にでもある弱さについて事前ワークシートを活用し、本時のねらいとする価値への方向付け(めあて)とする。 ・めあては口頭で、板書での提示はしない。
展 開	2 資料「口永良部島で生きる人々(写真)」を見て考える。 【書く活動①】 提示写真 ① 噴火前の口永良部島と人々の生活 ② 噴火後の口永良部島(多方面より) ③ 避難(離島の様子) ④ 避難後の生活 (1) 口永良部島の人々の島への思い (2) 口永良部島の人々の島への思いや考えの交流【話し合い】(グループ) ↓ [全体] (3) 口永良部島の人々一人一人の島への思いを考える。	○全島避難をしている口永良部島の人々は、今どんな気持ちでいるだろうか。 ・辛い→家に帰られない。 ・不安→本当に戻れるのか。 ・心配→家畜が無事なのか。→ペットは無事なのか。 ・怖い→また噴火するかも。 ・さびしい→友達と会いたい。 ・きつい→ゆっくりできない。 ・必ず帰りたい→元に戻す。 ・頑張ろう→普通の生活を。 ○なぜ頑張れるのだろうか。 ・故郷だから。 ・心が強いから。 ・島を大切に思っているから。 ・普通の生活に戻りたいから。	・口永良部島の生活状況(人口、産業、自然等)の説明後、①～④の写真を提示する。 ・避難住民の様々な気持ちを考えさせるためにウェビング化して表現させ、その理由も簡潔に記述させる。 住民の不安で辛い気持ちや早く島へ帰りたいという気持ちに気付いている。 ・同様な考えや異なる考え、似ている考え(多面的・多角的)があることに気付かせるために、近くの児童と交流させ、自己の考えに加筆する場合は、朱書きをさせる。 ・可視化のため、板書に全体の考えをウェビング化してつなげていく。 ・あきらめずに頑張ろうとしている気持ちが見えるところに視点を向けさせる。 辛さや悲しさ、今後に向けての不安だけではなく、島への思いや自分の家に必ず戻るという強い願いを感じている。 ・必ず島に帰って元の生活に戻るという新聞記事で人々の島への思いを伝えたい。 当たり前な生活に戻すためには、自分がしなくてはならないという島民一人一人の強い決意を感じている。
終 末	3 口永良部島の人々から学んだことを振り返る。 【書く活動②】 4 自分について考える。	○口永良部島の人々から学んだことは何だろう。 ・自分が頑張らないといけないこと。 ・我慢すること。	・口永良部島の人々から学んだことを簡潔に書かせる。 ・これまでの自分と今後の自分について、視点を絞らせ、具体的に書かせる。